



上土幌町長 竹中 貢

令和3年度

# 町政執行方針

- ▶ 未来に生きる子や孫たちが、誇りをもって笑顔で暮らせるまち
- ▶ 第Ⅱ期地方創生の柱を、上土幌ならではのSDGsで実現するまち

めた持続可能な開発目標SDGsでは、内閣府のアワード(審査)で高い評価をいただいております。また、各施策の事業効果を高めることやコロナ後の社会の変化を見据え、ICTの活用を図ってまいります。

本町は今年、開町90周年という記念すべき年を迎えております。コロナ禍での記念事業は限られますが、令和4年度からスタートする第6期総合計画(10か年)の策定中であり、開町100周年に向け、持続可能なまちを目指した計画を策定してまいります。

町民の皆さまから町政執行の負託を受けた任期4年間は、選挙での公約を始め総合計画や総合戦略との整合性を図りながら「いきがい」や「幸せ」を実感できるよう、まちづくりに全力を尽くしてまいりますので、町民の皆さま、議員各位には、更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

地場産業で地域の活力を生み出すまち

## ◆ 農業

農業を取り巻く情勢は、新型コロナウイルス感染症拡大による国内消費の減退、経済連携協定によるグローバル化、スマート農業の進展など急速に変化しております。これらの変化に柔軟に対応すべくJA上土幌町や関係団体との連携を密にしながら適切な対策を講じてまいります。

昨年の本町の農業は、畑作においては概ね平年並みの作況、酪農部門においては規模拡大により生乳の増産が見込まれ、肉用牛については未だ不透明ではありますが、農業総生産額は昨年を上回る見込みと伺っております。

農業振興策につきましては、今年度4月から居辺地区集中バイオガスプラントが稼働しており、家畜ふん尿を核とした資源・エネルギーのリサイクルシステムの構築による地域農業の持続的な発展と環境保全を進めてまいります。また、デントコーンの受託栽培および町内で生産される消化液の利用を支援していくとともに、農作業のコスト削減や生産性の向上を図るため、ICT・IoTを活用した農業版エネルギーマネジメントシステムの構築等、スマート農業を推進してまいります。改修が完了した食品加工センターにつ

この度の任期満了に伴う上土幌町長選挙におきまして、町民の皆さまのご支持を賜り、引き続き上土幌町政を担わせていただくことになりました。光栄であると同時に責任の重さを改めて感じております。微力ではありますが、上土幌町のたゆまぬ発展のため、誠心誠意、職務を務めさせていただきます。

この度の選挙では、未来に生きる子や孫たちが、誇りをもって笑顔で暮らせるまちを目指し、元気まち上土幌「つなごう子や孫へ」をスローガンに、次の10のテーマを掲げました。①コロナ禍から町民の命と暮らしを守る、②SDGsの取り組みでまちの価値を高める、③農林業の更なる成長、④商工観光の振興で活力にあふれるまち、⑤生涯活躍のまち、⑥子育て・教育の充実したまち、⑦ユニバーサルデザインで優しいまち、⑧災害に強いまち、⑨行財政の健全化、⑩アフターコロナを見据えた新しい時代に対応したまちです。特にコロナ禍への対応は喫緊の課題であります。また、国連が定

きましては、地元の農畜産物を活用した新たな特産品の開発、製造、販売等、6次産業化の拠点施設として運営面の充実を図ってまいります。

基盤整備につきましては、国営事業の秋ヶ岡排水路の整備(最終年度)、道営事業による農地や農道の整備を進めてまいります。

家畜伝染病対策につきましては、規模拡大により予防の重要性が増していることから、防疫体制の強化に努めるとともに、発生時には迅速な対応により、被害の拡大を防止してまいります。

ナイタイ高原牧場につきましては、指定管理者であるJA上土幌町と連携を密にし、適正な管理運営を図ってまいります。

農業委員会につきましては、農地法等に基づき法令業務を厳正的に執行するとともに、農地利用の最適化を推進するため、担い手への農地の利用集積や農地の流動化を促進してまいります。

## ◆ 林業

本町の約4分の3を占める森林は、木材の生産はもとより水源のかん養、土砂災害の防止など多面的機能を有し、さらに大気中の二酸化炭素を吸収し温暖化を防止する大切な役割を担っています。しかし現状は、採算性の低下などにより森林所有者が森林づくりへ

の意欲を失い山離れが進んでおりますので、こうした状況の改善として、伐採後の着実な植林や担い手対策に対する支援、また、森林への愛着を育む活動に対し森林環境譲与税等を有効に活用し推進してまいります。

木を育てるには長い年月が必要で、森林整備計画に基づき計画的かつ長期的な整備を実施することにより、循環型の森林経営を目指し、環境と経済が調和したカーボン・ニュートラルな社会の実現に寄与してまいります。

## ◆ 商工業

新型コロナウイルス感染症拡大により、特に飲食業をはじめ大きな影響を受けたのが商工業であります。未だ収束の見通しが立たない状況にありますことから、事業者の皆さまが経営の持続化を図れるようプレミアム商品券発行事業などの経済対策を講じてまいります。

また、「ナイタイテラス」と「道の駅」など観光拠点と商店街の連携により街中の賑わいを創出し、消費を促すイベントやバルーンスタンプ子育て支援カード事業、歳末大売出しなどの商店街活性化事業を支援してまいります。創業支援事業につきましては利用者が多く、しかも業種も多様で空き店舗

対策や商工業の活性化にもつながっていることから、引き続き意欲ある起業者を支援してまいります。

雇用・求人につきましては、町独自の「無料職業紹介事業」において、町内求人企業と求職者とのマッチング等、雇用成立に向け取り組んでまいります。また、建設業の技術者等の担い手不足に対し、人材の確保に向けて必要な支援を講じてまいります。

## ◆ 企業誘致

企業の地方移転につきましては、国においても税制の優遇など各種政策を講じておりますが、今なお、東京圏への集中は解消されず厳しい現実にあります。

企業誘致に至るには、地域資源や地域特性などさまざまな形で情報発信を続けることが重要で、そのため縁のある企業やウィーク参加企業等との関係を深めるとともに、「かみしほろシェアオフィス」を活用し、企業や人材の誘致を図ってまいります。

また、ドローンを活用した夜間遭難救助サービスやドローン配送の実証、タブレットを活用した各種取り組みなど、ICTやイノベーションに積極的なまちであることやSDGsで高い評価を得ているまちとして内外に発信してまいります。さらに、宿泊施設との連

## ◆ 観光

商工業とともに、新型コロナウイルス感染症拡大に大きな打撃を受けたのが宿泊・観光業であります。ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、新たな観光スタイルの実践を進めるとともに、事業者が経営の持続化を図れるよう支援してまいります。

また、本町の豊富で恵まれた観光資源を活かし「観光地域づくり」を進めるため、観光地域商社「株式会社karch」を基軸にDMO形成・確立のための事業展開を行っているところであります。

本年度につきましては、DMOネットワークの構築やSDGsツアーの商品開発など、新たな観光スタイルに合わせた体験型商品の造成、商店街やぬかびら源泉郷と連携したビジネスモデルの検討を中心とした事業推進など、令和4年度のDMO法人登録に向けた取り組みを支援してまいります。

初年度の営業を終えた「道の駅かみしほろ」は、コロナ禍の影響を受けつつも約44万人の入込となり、旅行情報誌

健康で安心して暮らせる  
まち

◆ 保健・医療

による北海道における『道の駅ランキ  
ング2021』で総合第1位を獲得す  
ることもできました。ゲートウェイ機  
能を有した道の駅を中核に「ナイタイ  
テラス」「商店街」「ぬかびら源泉郷」な  
ども人の流れを誘導し、包括的な観  
光の取り組みを支援してまいります。  
近年、サイクリング人口が増加傾向  
にあり自転車を活用した観光が注目さ  
れております。そのような中、国土交通  
省が進める優れたサイクルルートを指  
定する「ナショナルサイクルルート」に  
三国峠から大樹町までを結ぶ「トカブ  
チ400」が候補に選定されたことか  
ら、新たな観光資源としての「サイクル  
ツーリズム」の取り組みを進めてまい  
ります。

全国で最も歴史がある北海道パルー  
ンフェスティバルは、2年後の夏に第50  
回の記念すべき大会を迎えます。今年度  
から準備検討委員会を立ち上げ、記念事  
業等の検討を進めてまいります。  
また、熱気球の担い手につきまして  
は、パイロットやクラブ育成のための  
「人材育成事業」により成果を上げてお  
り、今後につきましては、熱気球のビジ  
ネス化に向けた起業支援など、これか  
らも「熱気球のまち」として、持続的か  
つ発展できるように取り組みを進めてま  
います。

また、熱気球の担い手につきまして  
は、パイロットやクラブ育成のための  
「人材育成事業」により成果を上げてお  
り、今後につきましては、熱気球のビジ  
ネス化に向けた起業支援など、これか  
らも「熱気球のまち」として、持続的か  
つ発展できるように取り組みを進めてま  
います。

更に、いつ発生するかわからない災  
害に備え、災害情報の一斉配信を多様  
な媒体を用いて周知する環境を整備す  
るとともに、地域自主防災の組織化と  
防災訓練を通して「自助」「共助」「公  
助」の連携による防災体制の確立に努  
めてまいります。

更に、いつ発生するかわからない災  
害に備え、災害情報の一斉配信を多様  
な媒体を用いて周知する環境を整備す  
るとともに、地域自主防災の組織化と  
防災訓練を通して「自助」「共助」「公  
助」の連携による防災体制の確立に努  
めてまいります。

更に、いつ発生するかわからない災  
害に備え、災害情報の一斉配信を多様  
な媒体を用いて周知する環境を整備す  
るとともに、地域自主防災の組織化と  
防災訓練を通して「自助」「共助」「公  
助」の連携による防災体制の確立に努  
めてまいります。

更に、いつ発生するかわからない災  
害に備え、災害情報の一斉配信を多様  
な媒体を用いて周知する環境を整備す  
るとともに、地域自主防災の組織化と  
防災訓練を通して「自助」「共助」「公  
助」の連携による防災体制の確立に努  
めてまいります。

更に、いつ発生するかわからない災  
害に備え、災害情報の一斉配信を多様  
な媒体を用いて周知する環境を整備す  
るとともに、地域自主防災の組織化と  
防災訓練を通して「自助」「共助」「公  
助」の連携による防災体制の確立に努  
めてまいります。

更に、いつ発生するかわからない災  
害に備え、災害情報の一斉配信を多様  
な媒体を用いて周知する環境を整備す  
るとともに、地域自主防災の組織化と  
防災訓練を通して「自助」「共助」「公  
助」の連携による防災体制の確立に努  
めてまいります。

新型コロナウイルス感染症拡大の収  
束が未だに見通せない中、町民の皆さま  
には、感染拡大防止にご理解とご協力を  
いただき、心より感謝申し上げます。  
感染症への対応といたしましては、  
5月の連休明けから順次始めるワクチ  
ンの接種が、町民の安全・安心に寄与  
し、感染拡大の抑制につながると期待  
されることから、円滑に接種できるよ  
う万全を期してまいります。

また、感染拡大を未然に防ぐため町  
民へのPCR検査の支援の拡充を行  
い、新型コロナウイルス感染症への対  
策・支援を講じてまいります。  
健康寿命の延伸を目指した取り組み  
といたしまして「予防」を理念とした普  
及啓発事業の推進を図るとともに、訪  
問等による個別の受診勧奨を強化し  
て、生活習慣病の発症予防や重症化予  
防の充実や健康ポイント事業による町  
民の運動量増加を図ってまいります。

地域医療につきましては、町民が安  
心して町内で受診できるよう、第一次  
医療圏としての機能と安定した地域医  
療体制確保のため、引き続き支援して  
まいります。

高齢者運転免許自主返納につきまし  
ては、返納への啓発を進めるとともに、  
自家用車を手放しても安心して移動で  
きる環境の整備を検討してまいります。  
安全・安心のための防犯カメラにつ  
きましては、交通量が増加している道  
の駅周辺の交差点に新たに整備してま  
います。

消費者保護につきましては、悪質か  
つ巧妙化している詐欺等の被害にあわ  
ないよう、啓発活動や相談体制を整え  
てまいります。

町営住宅につきましては、公営住宅  
等長寿命化計画の見直しを行い、快適  
な住環境の確保に努めるとともに、ま  
ちなか住宅の整備や北団地の改修整備  
を進めてまいります。

一般住宅につきましては、民間賃  
貸住宅の建設や持家住宅の新築・リ  
フォーム、子育て世代の住宅取得を支  
援してまいります。  
水道につきましては、施設・設備の適

一般住宅につきましては、民間賃  
貸住宅の建設や持家住宅の新築・リ  
フォーム、子育て世代の住宅取得を支  
援してまいります。  
水道につきましては、施設・設備の適

◆ 地域包括ケアシステムの充実

医療や介護が必要になっても、住み  
慣れた地域で暮らすことができるよ  
う、地域包括支援センターが中心とな  
り医療機関と介護事業所との連携強  
化により、地域の実情に応じた多様な  
サービスの充実や支え合いの体制づく  
りを進めてまいります。

介護予防として「地域まるごと元気  
アッププログラム」や認知症初期集中  
支援チームによる認知症の早期発見・  
早期予防活動により「認知症になりに  
くい町づくり」を引き続き進めてまい  
ります。

また、ICTの活用による高齢者向  
けのタブレットを利用した遠隔健康相  
談、緊急通報システムや一斉情報配信  
システムなどを活用し、独り暮らしの  
不安軽減に努めるとともに、加齢に伴  
う聴力低下により閉じこもりや認知機  
能低下に至らないよう、補聴器購入費  
用の支援を行ってまいります。

高齢者、障がいのある人だけでなく、  
すべての人に配慮したユニバーサル社  
会の実現に向けたハード整備の調査・  
検討を進めるとともに、町民の皆さま  
の理解と協力に向けたソフト面の推進

切な管理により安全・安心な給水体制  
の確立を図ってまいります。  
下水道につきましては、ストックマ  
ネジメント計画に基づき管理センター  
の設備機器の計画的な更新・改修を進  
めるとともに、適切な管理による公共  
用水域の保全に努めてまいります。  
また、水道・下水道、両特別会計につ  
きましては、公営企業会計の適用化を  
進め、経営基盤の強化を図ってまい  
ります。

道路・橋梁につきましては、災害対策  
として道路排水整備や劣化道路の維持  
補修、橋梁の長寿命化に向けた修繕を  
実施するとともに、福祉とも連携しユ  
ニバーサルデザインの視点に立った生  
活道路や歩行空間について検討してま  
います。

地籍調査につきましては、計画的な  
土地利用や適正な土地取引、税の公平  
負担を図るなど、土地政策の基礎とな  
るものであり、引き続き調査を進めて  
まいります。

地域公共交通計画は、昨年度法定協  
議会を中心に関係機関、専門家、町民の  
皆さまのご意見を伺いながら策定いた  
しました。  
今年度は、市街地を循環している高

◆ 子育て支援

第2期上士幌町子ども・子育て支援  
事業計画に基づき、こども園保育料の  
無料化や高校生までの医療費無料化の  
他、未入園児の子育てを支援するファ  
ミリーサポート事業の拡充を図ってま  
います。

また、親の不安や孤独感の解消がで  
きるよう、情報提供や相談体制の充実  
を図るとともに、親同士やボランティア  
等がともに子育てを楽しむ「ママの  
HOTTステーション」事業の支援や子  
育て支援ネットワークづくりを広げ、  
子育てを支えるための施策を講じてま  
います。

防災対策につきましては、自然災害  
はもとより新型コロナウイルス感染症

高齢者等福祉バスのコミュニティバス化  
に向けた検討や農村部の福祉バスを全  
てデマンド化する実証実験などを実施  
してまいります。また、地域交通計画を  
基に、農山村における新たな交通シス  
テムを構築してまいります。

家畜排せつ物を資源とする再生可能  
エネルギーの地産地消につきましては、  
官民共同の「株式会社KarcH」が電  
力を販売し、公共施設やJA施設をほじ  
め、農業事業者や一般家庭にも供給し  
ておりますが、地産地消や省エネのより一  
層の普及に向けた啓発と利用者の拡大  
に向け支援してまいります。

また、環境への負荷を軽減する「循環  
型社会」を形成するため、ごみの分別・  
減量化に向けた取り組みを進めるとと  
もに、住環境の整備に向け老朽施設の  
解体撤去に対する助成を引き続き行っ  
てまいります。

要望の高い総合公園や地域の小公園  
等の整備につきましては、各公園の利  
用状況や周辺施設との整合性など総合  
的な視点に立ち、今後のあるべき公園  
の全体像を明確にするための検討を早

安全で快適に生活できる  
まち

◆ 防災・情報インフラ

高齢者等福祉バスのコミュニティバス化  
に向けた検討や農村部の福祉バスを全  
てデマンド化する実証実験などを実施  
してまいります。また、地域交通計画を  
基に、農山村における新たな交通シス  
テムを構築してまいります。

自然の豊かさとし美しさが  
実感できるまち

◆ 環境保全・環境美化・公園

家畜排せつ物を資源とする再生可能  
エネルギーの地産地消につきましては、  
官民共同の「株式会社KarcH」が電  
力を販売し、公共施設やJA施設をほじ  
め、農業事業者や一般家庭にも供給し  
ておりますが、地産地消や省エネのより一  
層の普及に向けた啓発と利用者の拡大  
に向け支援してまいります。

また、環境への負荷を軽減する「循環  
型社会」を形成するため、ごみの分別・  
減量化に向けた取り組みを進めるとと  
もに、住環境の整備に向け老朽施設の  
解体撤去に対する助成を引き続き行っ  
てまいります。



令和3年度

# 教育行政執行方針

上士幌町教育委員会教育長 小堀 雄二

現在、新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えない中ではありますが、Society5.0の到来、グローバル化の進展、SDGsを原動力とした地方創生など、新しい未来への扉はすでに開かれております。

未来に生きる子や孫たちに伝え、笑顔で暮らせる「持続可能なまちづくり」を実現するためには、質の高い教育を提供することが重要であり、子どもも大人も「学び」をとおして、自分を輝かせることができる生涯活躍の教育環境を一層充実させることが不可欠と考えております。

期に進めてまいります。

## 人づくりを大切に まち

生涯学習は、日々の生活の土台となるものであり、生涯学習センター「わか」は、町民の学びの場、交流・憩いの場として定着してきております。今後、誰もが生涯を通じ学び、支えあうことのできる拠点施設となるよう環境整備を進めるとともに、郷土への理解と誇りを持ち、将来の上士幌町を担う人材の育成に向けた学習環境の整備を図ってまいります。

## 自覚を持ち、心が通いあう まち

### 交流・移住・定住

東京の一極集中の是正は、コロナ禍の教訓からも緊急度が増しており、地方への新しい流れをつくる「関係人口」の創出がキーワードとなっております。

昨年度開設したシェアオフィスは、コロナ収束後にはテレワークやワーケーションの需要が高まることを見込まれており、働き方改革と連動した企業との関係を深め、サテライトオフィスの誘致も視野に戦略的な取り組みが必要と

なっております。

そのため今年度は、宿泊機能を持つ「企業滞在型交流施設」を整備し、より濃密な関係を通してテレワーク等の実効性を高めてまいります。

移住定住に繋がるお話し暮らしにつきましては、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえるとともに、オンライン面談などの手法を用いるなど臨機応変に対応してまいります。

ふるさと納税寄付者を対象に実施している「ふるさと納税見本市」は、寄付者と上士幌町との絆を強め関係人口創出のために重要なものですが、コロナ禍のためICTを活用した目的に沿ったイベントとして充実を図ってまいります。

また、若い世代の結婚を希望する方々を応援し、定住の促進を図るため、「結婚新生活支援事業」を今年度から実施いたします。

### 生涯活躍のまち

「生涯活躍のまち」の取り組みについては、健康寿命の延伸や生きがい、働きがいなどをコンセプトに官民共同の「株式会社生涯活躍のまちかみしほろ」が行政と連携のもと、人材センター、健康ポイント、マイミチプロジェクト、起業塾など従来から要望のあった課題について、民間の視点を取

## 地域ぐるみの子育て支援

第2期上士幌町子ども・子育て支援事業計画が、昨年度策定され「子どもの笑顔あふれるふれあいの元気まち」を基本理念に、安心して出産・育児ができるよう、また、さまざまな状況に応じて柔軟にサークル活動ができるよう、切れ目のない支援を提供してまいります。

認定こども園における保育料と給食費を引き続き無料化するとともに、小学生には補助教材費や修学旅行経費、漢字・英語など各種検定料の助成をとおして、子育て・教育にかかる保護者負担の軽減に努めてまいります。

また、就学援助世帯に対しては、ICTを活用した家庭での学びを保障するため「モバイルルーター」の無償貸し出しを行ってまいります。

### 保育と幼児教育の充実

保育と幼児教育は、子どもたちの生涯にわたる学びと人間力育成の向上に寄与するものであり、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で感性を育むことが重要です。このため、認定こども園では幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿の取り組みや36の基本動作による体幹強化と体力向上を図ると

り入れながら多角的に事業を行ってまいります。

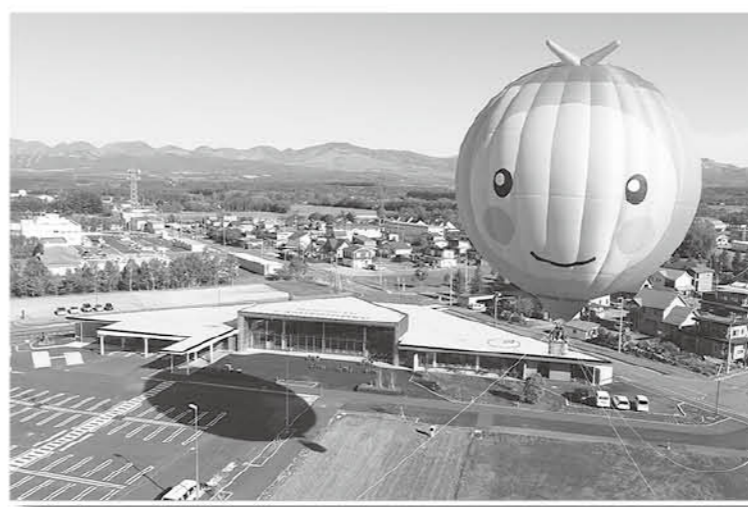
また、町民の困りごとの解決に真摯に向き合うなど、公共性の高い活動を行っており、引き続きまちづくり会社と連携しながら、生涯活躍のまちを進めてまいります。

### まちづくり活動開かれた行政

ボランティアをはじめ、さまざまな非営利団体とは協働するまちづくりの

担い手として連携を図るとともに、活動の活発化に向けた協力・支援を行ってまいります。また、行政情報の開示や出前講座等により住民参加の促進を図ってまいります。

以上、令和3年度の町政執行の基本方針と主要な施策といたします。



▲昨年度オープンした道の駅かみしほろ

共に、指導要録等を用いた引継ぎの徹底による小学校へのスムーズな流れと連携強化を促進してまいります。

また、家庭や地域が保育と幼児教育の重要性について一層理解を深め、未入園児の子育て環境充実のため、子育て支援センターを中核として、地域の中でも子どもを託児できるようファミリーサポート事業を公共施設でも活用できるようにするなど、保健福祉部局とも連携して支援の拡充を図ってまいります。

外国の文化への関心と世界に開かれた心を育み、グローバル社会の担い手となる子どもたちの国際理解を促進するため、国際交流推進員を継続して配置し、国際交流につながるコミュニケーション力の向上に努めます。さらに、異世代交流や地域とのつながりが深められるよう地域サロンなどを活用して、子どもたちと触れ合う機会が得られるよう計画してまいります。

### 子ども発達支援センターの充実

0歳から18歳までの発達段階や特性に応じた子どもたちの健やかな育ちを促すとともに、発達に不安を抱える保護者への支援を充実してまいります。また、乳幼児の発達状況を認定こども園や子育て支援センター等と情報共

有し、早期からの適切な発達を促す取り組みを推進してまいります。

障がいのあるなしにかかわらず、子どもたちの自立と将来を見据えた社会参加への実現に向け、センター内の療育機器を定期的に地域開放するなど、一人ひとりのニーズに応じられるよう努めてまいります。

### 学童保育所の充実

学童保育所では、保護者の仕事と子育ての両立を支援するとともに、子どもたちの健全な育成を目的としています。そのため学童保育所における子どもの遊びや生活の場としての機能が果たされるよう、安全で安心できる施設運営や施設環境の充実を図ってまいります。

## 教育環境の基盤整備

### かみしほろ学園の推進

「かみしほろ学園」は、上士幌町子ども教育ビジョンに定められた5つの「目指す子ども像」の具現化を図るため、さらに、学校、地域、行政の連携を深め、組織的に進めてまいります。この中において、こども園から高校

までに体験するふろさと学習を「かみしほろ学」として体系化し、持続可能な開発のための教育や2030年までの国際目標であるSDGsについて校種間連携を重点的に進めてまいります。

◆子どもの読書活動の推進

今年3月に「いつも身近に本がある環境づくり」「子どもの意識啓発促進」「乳幼児の保護者への意識啓発の促進」の3点を基本施策とし、令和3年度から5年間で計画期間とする、上士幌町第2期子どもの読書推進計画を策定いたしました。

町内の学校に読書コーディネーターを派遣し、司書教諭や図書担当教諭と連携し、図書室等の整備や読書ボランティアなどの地域人材の活用を進めるとともに、図書館と連携しながら子どもの読書環境の充実を図ってまいります。

また、計画策定に携わった各関係機関が事業の現状把握やニーズの共有、調整ができる機会を創設し、毎年度、評価・検証を行いながら子ども読書の定着を進めてまいります。

◆教育環境の整備等

コロナ禍の収束が見通せない状況下で、学校内の換気対策・環境整備は大変

活用するなど、統一した取り組みをさらに継続してまいります。また、学校と家庭とで活用できるデジタルドリルを購入し、児童・生徒一人に1台整備したICT機器等を活用した家庭学習を推進してまいります。

◆豊かな心と健やかでたくましい心身を育む教育の推進

全国学力・学習状況調査の「児童生徒質問紙」の回答では「ゲームを毎日2時間以上している」と答えた小学6年生が56.1%、「ゲームを毎日4時間以上している」と答えた中学3年生が27.0%でした。さらに、「家でテレビやゲームの時間に関するルールを決めている」と回答した割合が、小学6年生で51.2%、中学3年生で32.4%と、家庭における生活習慣等の見直しも必要であり、さまざまな手段を講じて、小中学校からの通信等の資料提供や「生活リズムチェック」などの活用・啓蒙の取り組みをおとして、生活習慣に対する関心や意欲を高め、改善を図ってまいります。

体力の向上は、日常的に運動に親しむ姿勢や基本的な生活習慣の確立が重要です。このため、小・中学校では全学年で新体力テストを実施するなど、客観的なデータを基に計画的・継続的に子どもたちの体力や運動能力を高める

重要と考えております。このため小学校体育館網戸設置工事を行うとともに、小学校および中学校の普通教室等に冷房設備の設置に向けた準備を進めてまいります。

また、スクールバスの安全運行、車輛維持費の削減、さらに、将来的に安定した路線を確保するためスクールバスを新規購入いたします。

新型コロナウイルス感染症防止のため、安全安心な教育環境が求められていることから、学習指導員やスクールサポートスタッフ等の人材についても引き続き任用し「学校における新しい生活様式」の実践を支援してまいります。

◆教職員の働き方改革

平成30年度より、教職員が本来の業務に専念できるよう働き方を推進するため、学校における働き方改革「上士幌アクションプラン」を策定し、学校閉庁日や定時退勤日の設定をはじめ、タイムカード導入による勤務時間の見える化や留守番電話を設置し、教職員の負担軽減を図ってまいりました。また、コロナ禍での働き方としては「在宅勤務」の推奨をはじめ、消毒作業を実施する場合は、極力教職員ではなく、スクールサポートスタッフなど外部人材を活用してまいりました。令和3年度

取り組みを進めてまいります。

◆情報活用能力の育成と国際理解教育の推進

国におけるGIGAスクール構想の推進により、学校のICT環境整備が進められ、本町では児童・生徒一人1台の端末整備が完了しました。また、昨年度配置のICT推進担当教諭を中心に小・中学校の教職員に対する研修も行われ、校内のネットワーク環境も整備されたことから、学校内での端末活用が進められています。

十勝EdTechコンソーシアム（帯広コア専門学校）との連携に加え、今年度は北海道情報大学とも連携してICTを活用した教育を推進してまいります。

なお、上士幌小学校は、十勝教育局のICT活用実践事業協力校の指定を受け、「Google Meet」を活用した学級活動や集会活動、デジタルドリルを活用した学力向上の取り組みなどを積極的に進めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学級閉鎖や学校臨時休業等に備え、児童・生徒が自宅でも端末を活用して学習できるよう環境整備に努めてまいります。

国際理解教育については、外国人英

からの「第2期上士幌アクションプラン」では、新たに「上士幌町働き方改革推進会議」を開催し、時間外在校時間の要因や背景の分析を行うとともに、働き方改革の手引き「Road」を活用した業務の平準化や効率化を進めてまいります。

また、1年単位の変形労働時間制については、学校における働き方改革を推進する一つの選択肢として引き続き検討してまいります。

義務教育の充実

今年度から中学校の「新学習指導要領」が全面実施となります。主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善、社会に開かれた教育課程の編成・実施など、上士幌ならではの「学び」が展開されるように、学校と地域との連携を深めてまいります。

また、国は今後5年間で小学校の35人学級を導入することを決定しましたが、本町ではすでに実施しているため、今後は、密を避け更に学習効果を高めるためにも、令和4年度から「小学校全学年30人学級」実現に向け準備してまいります。

今年度は、国の「教育基本計画」、北海道の「教育推進計画」を踏まえた「上士

語指導助手および国際交流推進員を中心に、認定こども園と上士幌小学校の接続を考慮した取り組みを継続いたします。また、社会教育と連携して、町内に在住する外国人を対象に、スポーツ交流をはじめ日本文化の体験や外国文化に触れあう機会を拡充してまいります。

◆食を育む学校給食

本町の小学生は、全道・全国に比べ、朝食を毎日食べている割合が低く、望ましい食習慣の定着に課題があります。このため、栄養教諭を小学校に配置し、学校給食を「生きた教材」として食育が推進されるよう、地場産品を活用したふるさと給食や生徒自らが考案したメニューの提供を実施するなど指導の充実に努めてまいります。なお、学校給食センターは、現施設となつてから22年目を迎えることから、調理機器等の計画的更新を行っており、今年度については、プレハブ冷蔵庫・冷凍庫を更新し、今後も、徹底した衛生管理のもと、安心安全な学校給食を提供してまいります。

高等学校の支援

十勝学区全体の中学校卒業生は前年

幌町教育推進計画」を策定いたしますが、本町の「第6期上士幌町総合計画」で掲げる教育施策との整合性を図りながら、町長が定める「教育に関する大綱」に沿う計画として策定作業を進めてまいります。

◆確かな学力の向上

令和2年度の「全国学力・学習状況調査」は、新型コロナウイルスの影響により全国統一での実施はありませんでした。十勝管内では、独自に全学校の自校採点のデータを集計し結果が報告されましたが、小学校、中学校ともに国語科での改善が見られる一方、算数・数学では、依然として課題が見られる領域がありました。さらに、小・中学校ともに国語、算数（数学）における記述式問題の正答率が低いことも分かりました。

このため、教育課程全体を通じて「書く」活動を取り入れるなど、児童・生徒の言語活動が十分に保障される授業改善に努めてまいります。授業づくりは、不断の研修が欠かせないことから、教師の指導力向上を目指し、北海道教育大学釧路校や附属小中学校との連携した研修を実施してまいります。

家庭学習は、学校の組織的・計画的な指導が重要であり、かみしほろ学園で取り入れているiBノート等を有効に

度と比較して約100名減少しましたが、上士幌高校の令和3年度入学者は昨年より10名増の55名となりました。少子化による管内の中学校卒業生の減少傾向に加えて、スポーツ・部活動分野、職業科、通信制など選択肢の多様化もあり、これまで以上に地域に根差した魅力ある高校づくりを進めていかなくてはなりません。

昨年は、有識者やPTA、卒業生、現役高校生、地域コーディネーターをメンバーとした「上士幌町教育魅力化ワーキンググループ」を立ち上げ、上士幌高校振興会への提言を行ってまいりました。

今年度は、新たに「(仮称)地域学校協働推進班」を設置し、上士幌高校や振興会との連携を強めた魅力化に努めてまいります。

生涯学習の振興

地域住民同士が共に学び合い、教え合う相互学習を通じ、教養の向上、健康の増進、人と人とのつながりを生み、地

5月定例議会において2億7,148万円を補正  
新型コロナウイルス感染症対策を重視し、  
住民の安心安全の確保に重点的に予算を

令和3年度

## まちの予算 その2

5月定例議会  
補正予算

令和3年度の当初予算は、町長選挙があったため骨格予算となっておりました。この度、選挙後の5月定例議会において2億7,148万円が政策予算として補正され、当初予算と合わせると総額は一般会計で83億6,385万1千円となり、前年度当初予算と比較して8億1,024万5千円の減額(8.8%減)となりました。

また、5つの特別会計を加えた6会計の予算総額は、103億3,493万7千円となり、前年度当初予算額と比較して7億791万6千円の減額(6.4%減)となりました。

今回の補正では、道路整備や公共施設の維持管理にかかる経費などインフラ整備費用を計上したほか、新型コロナウイルス感染症対策にかかる経費を積み増しし、住民の安心安全の確保と地域経済の活性化を図ることに重点を置いた予算編成となっております。

なお、今回補正された主要な事業については、次のとおりです。

※お問い合わせは、企画財政課財政担当(☎2-4290)まで

### 5月に予算を補正した主な事業

### \*行政・まちづくり

No.	事業名	補正予算額	事業内容
1	ふるさと納税・地方創生基金積立金	550万円	企業版ふるさと納税寄付金を地方創生事業に活用するため、基金に積み立て。
2	旧糠平小学校解体事業	2,144万円	老朽化した旧糠平小学校の解体工事を実施。
3	おでかけ確保対策(地域公共交通網形成)事業	330万円	市街地循環バスの運行実現に向け、実証実験や関連するワークショップ、公共交通マップの検討を推進。
4	結婚新生活支援事業	150万円	結婚に伴う経済的負担を軽減するために、新婚世帯に対し、新生活に係る住宅費用および引越費用の一部を補助(年齢、所得制限あり)。
5	ジャパンイノベーションチャレンジ開催支援事業	549万円	最先端のICT(情報通信技術)を活用した遭難救助ロボットコンテストなど民間主体の実証等の支援。

域づくりの実践に結びつくことができよう生涯学習を推進してまいります。生涯学習センター「わかか」は、町民の活動拠点として、幼児から高齢者まで多くの利用があり、今後も、引き続き町民にとっての居心地のよい学びの場、世代間交流の場、まちづくりの中核の場となるよう努めてまいります。

#### ◇社会教育の推進

誰もが豊かな人生を送ることができるよう学びのきっかけづくりを進めるとともに、仲間とつながり楽しく学び、学んだことを生かせる学習機会を提供してまいります。

人生100年時代が到来し、生涯にわたって学び、それを活かせる場の確保が生きがいへとつながります。今年度からは、生涯学習フェスティバル実行委員会において、かみしほる塾を開催し、現代社会の動きや抱える課題を地方創生やSDGsの視点を持ちながら、町民の皆さまとともに学び、地域づくりにつなげていきたいと考えています。

また、引き続き町民の皆さまに「学びの機会」をわかりやすく情報提供する「まなびの森講座ガイド」の発行と事業への参加奨励、自らの学びを応援する「みんなの学び応援事業」への呼びかけを行ってまいります。

60歳以上が対象のシルバー学級は、シニア世代が生きがいや目標を見つけてことができ、学んだことを社会生活の中で生かせるような機会の提供を行うとともに、学習意欲や活動意欲を高められる「生涯活躍を目標とした取り組み」を推進してまいります。

青少年のびのび育成事業では、学校教育との連携を意識し、放課後および休日を含めた子ども居場所づくりと、本町の豊かな自然や産業などに触れ、学ぶ体験活動を提供してまいります。

#### ◇社会体育の推進

少子高齢化の進行や健康体力づくりへの関心の高まりに伴い、スポーツに対するニーズが多様化しています。同時に生活様式や価値観の変化に伴い、子どもや成人の体力低下やスポーツ離れが進んでおり、その対策が必要です。身近な生活の場にスポーツを取り入れることにより、子どもから大人まで生涯をとおしてスポーツに親しみ、健康で明るく豊かな生活を送ることができるよう、参加機会の充実、スポーツ人口の拡大や指導者の養成強化、施設整備の充実に努めてまいります。

特に、学校と接続する子どもの身体づくりとして、プレゴールデンエイジ期からゴールデンエイジ期における身

体力を高める運動の機会の創出を重点的に取り組んでまいります。

健康福祉政策の一環として行っている健康づくりポイント事業は、体組成データを活用し、主観的健康観を主とした精神衛生の評価について高等教育機関と連携しながら進めてまいります。

#### ◇芸術文化活動の振興

芸術文化の振興は、地域社会に豊かさや潤いをもたらす、創造性ある地域の基盤となります。文化活動を通じて、創造性を培い、豊かな心が育まれるよう優れた芸術文化に触れることができれば、地域の歴史とともに育まれてきた文化や芸術をより身近に感じられるよう、町文化協会や各サークルの活動、町民文芸誌「火群」編集委員会などの自主的な活動を引き続き支援してまいります。

#### ◇文化財の保護・保存・活用

上土幌町の持つ豊かな自然とのふれあいを深め、埋蔵文化財や郷土資料等、地域に残された貴重な歴史資料の保護・保存を町民の協力を得て進めるとともに、町民が文化財に触れる機会を提供し、自らが生まれ育つ郷土への理

解と誇りを育んでまいります。

特に、今年度は、秋ヶ岡7遺跡の発掘調査を実施し、本町の大昔の生活の痕跡となる貴重な考古資料の記録保存を行ってまいります。

#### ◇図書館活動の充実

町民の主体的な学びや学習活動は、活力ある地域社会を支える基盤となります。今年度は、豊富で新鮮な蔵書整備による持続可能な図書館運営を進めるため、図書館情報システムの更新と蔵書点検を行います。これにより、ご自宅等からのインターネットを介した蔵書検索の利用が可能となる等、充実した図書館サービスの提供を進めてまいります。

また、図書館が子どもや親子の安心安全な居場所となり、立ち寄りたくなるような環境づくりを進めるため、「お話の部屋」周辺の改修等の施設整備を進めてまいります。

さらに、子どもの読書活動を推進するため、読書の楽しさを実感できる事業として「子ども司書」事業等を実施いたします。

以上、令和3年度の教育行政の推進方針と主要な施策といたします。

✿ 農業

No.	事業名	予算額	事業内容
1	食品加工センター管理経費	316万円	食品加工センター屋上防水の耐久性向上を図り、食品衛生を確保するため、屋上防水改修工事を実施。
2	牧場牛舎等解体事業	651万円	老朽化したナイタイ高原牧場第3 畜舎の解体工事を実施。

✿ 商工・観光

No.	事業名	予算額	事業内容
1	産業振興対策経費	600万円	新たに事業を行う事業者等を支援し、創業の促進による地域経済の活性化を図るため、創業に係る補助を実施。
2	商店街活性化対策事業	2,865万円	新型コロナウイルスによる地域経済への影響を鑑み、プレミアム付商品券発行事業等を実施し、生活支援・消費拡大を図る。
3	道の駅整備事業	2,199万円	道の駅屋内に電動ロールスクリーンを設置する。また、屋外に遊具やベンチ、大型看板を新設するとともに、既存の滑り台両脇に階段を設置。

✿ 消防

No.	事業名	予算額	事業内容
1	消防団車両等維持管理経費	147万円	車両投光器用発電機の老朽化に伴う故障により更新。

✿ 教育・文化

No.	事業名	予算額	事業内容
1	教職員住宅維持管理経費	328万円	教職員住宅2戸について、経年劣化が見られることから、外壁サイディングおよび防水コーキング等の改修を行う。
2	小学校管理経費	107万円	小学校体育館の窓に網戸を設置し、害虫等の侵入を防ぐとともに安全な換気対策を図る。
3	学校空調設備設置事業	204万円	小学校における熱中症防止の観点から、普通教室等へエアコンを設置するために必要な工事設計を実施。
4	学校空調設備設置事業	208万円	中学校における熱中症防止の観点から、普通教室等へエアコンを設置するために必要な工事設計を実施。
5	図書館管理経費	637万円	図書館情報システムの更新。システム導入費、利用料、保守料。更新に伴い、光回線を敷設(敷設経費、利用料)。

✿ 環境・保健・医療・福祉・介護

No.	事業名	予算額	事業内容
1	福祉灯油等支給事業	500万円	在宅で生活する低所得の方に対し、冬期間における採暖用灯油等購入費用の一部を助成し、負担軽減を図る。
2	新型コロナウイルス対応高齢者等生活支援事業	536万円	在宅で生活する低所得の方に対し、新しい生活様式に対応した消耗品を購入する経費の一部として、商品券一万円分を助成。
3	高齢者等在宅介護支援事業	111万円	加齢に伴う難聴により他者との会話等に支障が生じている高齢者を対象に、補聴器の購入費用の一部を助成。
4	新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業	402万円	新型コロナウイルスワクチン接種に係る職員の人件費およびワクチン予約受付システムの導入。
5	葬斎場及び墓地管理経費	424万円	上士幌共同墓地内の舗装道路が地盤沈下の影響により陥没していることから、路盤の整備工事を実施。
6	健康増進センター管理運営事業	1,683万円	経年劣化により不具合が生じているふれあいプラザの暖房給湯設備(ボイラー)について、安全で快適な浴場営業が継続できるよう改修工事を実施。

✿ 建築・土木

No.	事業名	予算額	事業内容
1	車両運行管理経費	270万円	除雪作業中の安全対策のため、町所有の除雪車両にドライブレコーダーとバックモニターを設置。
2	市街地歩道補修事業	3,104万円	縁石や歩道の破損が通行に支障をきたしているため、ふれあい団地および単身者住宅前の歩道の改修を実施。歩道補修 L=391m
3	上音更東1線道路歩道整備事業	573万円	縁石や歩道に不陸が生じ、車両の出入りに支障をきたしているため、歩道の改修を実施。歩道補修 L=60 m
4	幌加線道路整備事業	246万円	道路付属施設の下部が洗掘されており、道路本体への影響を防ぐため、下部の補修を実施。擁壁補修 L=17 m
5	本町西仲通北線道路改良舗装事業	2,903万円	舗装の破損や不陸により通行に支障をきたしていることから、再整備を実施。改良舗装 L=200 m
6	1区北1号線道路整備事業	795万円	舗装の破損や不陸により通行に支障をきたしていることから、再整備を実施。測量設計 L=170 m
7	1区北2号線道路整備事業	756万円	舗装の破損や不陸により通行に支障をきたしていることから、再整備を実施。測量設計 L=130 m
8	知国42号道路整備事業	1,794万円	道路付属施設の不陸により、道路が沈下していることから、道路の改修を実施。横断管復旧 L=15 m
9	ナイタイ幹線道路整備事業	347万円	道路付属施設が傾倒しており、道路に影響が生じる可能性があるため、道路を改修(R3はボーリング調査)。
10	町営住宅維持管理経費	110万円	公営住宅ふれあい団地の老朽化に伴う屋上改修工事の実施設計。